

課題番号3

課題名		
【重点課題3】マーケットインの発想による重点品目の生産振興 ぶどう栽培の省力化およびシャインマスカットの高品質化		
対象： ぶどう生産者（羽曳野市・太子町・大阪狭山市）	計画期間 R3～R8	
	事務所名 南河内農と緑の総合事務所	
普及課題	活動方法	活動成果（達成率）
デラウェアからシャインマスカットへの品目転換 シャインマスカットの高品質化による単価向上	①自動換気装置の普及支援 ②DIYによるスマート農業機器の導入支援 ③データに基づいた栽培管理によるシャインマスカットの高品質化	① 南河内ぶどう生産額：24.8億円（R3） →調査中（R4） ②シャインマスカットの販売単価：1,464円（R3） →1,696円（R4） ③自動開閉装置の設置面積：5ha（R3）→6ha（R4）

総合評価（コメント）	
A：2名 B：4名 ■大阪産（もん）を代表する「ぶどう」産地の活性化に向けた普及組織ならではの指導活動であり、評価できる。普及活動の成果を生産者の経営改善・経営安定や生産振興に活かしてほしい。 ■発表の最後で指摘されたように、今後は、より多くの生産者へ高品質化をめざした栽培管理方法の普及、JA等と連携した販売戦略の確立が期待される。 ■地域としての重点課題をきっちりと把握できており、それに向けた取り組みとしては高く評価したいと思う。5年後のマーケットがどうなっているか、ということも踏まえて、本当にシャインマスカットだけでよいのか、ということには引き続き調査と検討が必要であるように思う。 ■品質向上への取り組みは不可欠だが、その上で、大阪ならではの特徴をどうやって出していくかを合わせて考えることが必要と感じた。国内だけでなく、海外も目指すのか、また、シャインの後継をどうするのかについても早めに手を打つことが必要と感じる。 ■品質の悪い農家の品質を上げていく必要があるが、篤農家も少なく、直売をしている人も多く、難しいと思う。 ■シャインマスカットは高価でおいしい果物というイメージがあったが、安価でおいしいものも出てきている。消費者の選択も厳しくなってくると思われる。店舗等で「南河内のぶどう」としてアピールしていくことが必要である。品種こだわらず「おいしく安心なぶどう」を目指してほしい。	

評価 A:おおむね適切である。 B:部分的に検討が必要である。 C:見直しが必要である。